

## ただいま模索中！ナチュラリスト養成講座

NPO 法人暮らし・つながる森里川海 白井 勝之

### ●センサーカメラで動物観察

動物観察で一番むずかしいのが哺乳類の観察です。夜行性であることや警戒心が強いので、なかなか出合えません。アライグマやハクビシンなどが話題になりますが、実物を見たことのある人は多くないと思います。平塚市にはどんな哺乳類が息づいているのでしょうか。多いのか少ないのか、保護が必要なのか等、ちゃんと調べられていないので、実態がわかりません。そこで、センサーカメラを使った生き物調査を実施することにしました。



### ● 写っていたものは

カメラを設置する場所は動物の通り道、いわゆる獣道です。最初は良くわかりませんが、眼の高さや見る位置などを変えると森の中に動物の道が浮かんできます。人にいたずらされない場所、やや暗い場所、高さは1メートルぐらいの所に設置します。設置期間は3週間。動画と写真の両方が選べますが、動画の方が断然面白いです。設置や回収などは子どもたちの役割となります。

馬入水辺の楽校と土屋の里山体験フィールドで実施したところ、水辺ではアライグマ（写真上）、タヌキ、コジユケイ、猫が、里山ではタヌキ、ハクビシン、アナグマ、イタチ？ アオゲラ、コゲラ、キジ、ハシブトガラスの親子が映っていました。

常に全身が映るのではなく、草陰を動くものや画面の隅にちょこっと顔を出すものなどがいて、じっくり見る



水辺の楽校、アライグマ多そうです。（上）  
見逃すまいと、必死に映像を追いかけます。（下）

必要があります。そうそう、事前に生き物の特徴を知るため、体型や色彩などをスケッチして覚えます。これ大事です。

#### ●モグラ学事始め 「安藤式モグラのトンネル型取り」



7月9日は里山に集まり、モグラのことを学びました。身近に普通にいる生き物ですが、本物にはなかなか出会えません。まずは、自分のイメージするモグラ像をスケッチしました。形はもとより、眼や手足の形、位置、尻尾があったかどうか等、ハテと悩みます。スケッチの後、剥製を見て納得。写真で説明されるより、数段、生き物のことがわかります。

とっておきは、モグラのトンネルの型取り。ヤマザキ学園大学 安藤元一教授考案の方式は、なかなか楽しく、驚きとの出会いがあります。これオススメです。



ウレタンフォームをモグラの穴の中に注入し（写真上）、1時間ぐらい経つとトンネルが型どれます。（写真中）

土から掘り出すと、長いトンネルが出てきます。（写真下）

ちびっ子たち大感激。「ここでモグラがUターンしたのではないか」「ここはトイレか」などと、想像が膨らみます。ちなみに平塚市の環境展で展示したところ、モグラのトンネルとわかった人はいなかったようです。



#### ●ドキドキが伝わって来る

三つ目はナイトハイクです。県立城山公園と馬入水辺の楽校で実施しました。城山公園では、樹液の酒場にカブトムシやクワガタムシ、オオスズメバチなどが群がっていて、子供も大人も大興奮（次ページ写真上）。カブトムシが羽音を立



てて飛び交うと、「カブトムシ！カブトムシ！」と大騒ぎ。普段見るそれとは大違いのワイルドさに胸が高鳴ります。お目当のムササビも飛び出してきた、目前を滑空。忘れられない体験になりました。



水辺の楽校のナイトハイクでは、光で虫を寄せるライトトラップ（写真下）を設置したり、コウモリ  
の声を聞いたりなど、夜の生き物と触れ合いました。羽化したばかりのミンミンゼミとの出会いやカラスウリの花の匂いを嗅ぐなど、子どもたちのドキドキが伝わってくる自然体験となりました。

今後の催しについては、海の自然と親しもうと、相模湾ネイチャーウォッチングボートの運航を検討しています。平塚市漁業協同組合と連携し、海の自然と親しむプログラムを模索中です。早ければ12月に1回実施しようと思っています。結果はレポートいたします。